

# 名瀬市赤崎公園基本計画報告書

基 俊 太 郎  
井 手 久 登

1973

名 瀬 市

# 名瀨市赤崎公園基本計画報告書

基 俊 太 郎  
井 手 久 登

1973

名 瀨 市

## ごあいさつ

今年2月、経済審議会から政府に対し答申された経済社会基本計画によりますと、活力ある福祉社会の建設を目標とし、その計画期間の課題を、豊かな環境の創造を中心テーマに、都市公園の整備については、昭和47年度の1人あたり面積 $3\text{m}^2$ を $7\text{m}^2$ にするなど、かなり具体的な整備水準を設定しているようであります。

かえりみて、本市の都市公園面積は8.64haで、これを1人あたりにしますと $1.92\text{m}^2$ にすぎず、現在実施中の三儀山運動公園(16.20ha)が完成する時点で、ようやく $5.52\text{m}^2$ に達するという現状であります。

さて、あかざき地区の公園化については、かねて懸案としてまいりましたが、たまたま本市が横浜国立大学の宮脇先生に植生調査を依頼するに及び、これに即応した公園計画を確立して実施に備えようと、郷土出身の基俊太郎氏と東京大学の井手久登先生に計画立案をお願いした次第であります。

両先生におかれては、宮脇先生の植生調査と協力し合いながら困難な現地調査を実施され、ここに基本計画が樹立されるに至りました。

この計画は、科学的な植生図をもとにした本市の土地利用計画の最初のものであり、まさに画期的と申すべきでありましょう。それだけに、本計画の実現を促進し、市民福祉の向上に役立てたいと思います。

両先生の労に対しまして心から感謝申し上げますとともに、この上ながらよろしくご指導賜わりますようお願い申し上げます。

1973年3月

名瀬市長 大 津 鐵 治

## まえがき

本計画は、名瀬市より委託を受けた名瀬市赤崎公園予定地区の基本計画を示したものである。

計画立案に際しては、受託後2回にわたる現地調査を経て、計画地域の立地条件を把握、分析診断し、作業を進めた。本計画と併行して、植生調査が行なわれているが、本来ならば基礎調査である植生調査の結果をまわって、計画作業が進められるべきであるが、このような時間的な制約のために、細部については、実施設計の段階で植生図にてらして、一層の精度を高めることが望ましい。

しかしながら、本計画は植生調査の中間報告を取り入れつつ、土地の自然的諸条件を可及的に生かした公園基本計画の在り方を呈示するよう努め、一応の目的を達することができたと思う。

本計画の対象とした区域は、名瀬市が当初に予定した区域よりはるかに広範にわたっている。それは、将来の赤崎公園の性格を考えた上で、名瀬市にとっていわば中央公園的な大規模な緑地の存在が必要であると判断したからである。われわれは、本計画対象区域が全域公園地域として計画決定されることを望んでいる。

名瀬市が、本公園計画および事業を意欲的に推進していることは、はなはだ意義深いものであり、十分な成果が得られることを期待している。

1973年3月

基 俊 太 郎  
井 手 久 登

## 目 次

ごあいさつ	I
まえがき	II
I 分 析	1
I-1 名瀬市における赤崎公園の意義	1
I-2 赤崎地区の分析	2
イ 主要動線	2
ロ 利用形態	2
ハ 需要施設機能	3
ニ 自然条件	3
II 診 断	6
II-1 名瀬市の都市形態パターンからみた赤崎	6
II-2 赤崎公園の性格	6
III 計 画	7
III-1 地域区分	7
III-2 計画パターン	7
III-3 保護計画	8
III-4 基本計画	9
む す び	10

## 図 表 目 次

第1図 緑地レクリエーション地の分布図
第2図 奄美群島国定公園計画図
第3図 現況主要動線図
第4図 傾斜度図
第5図 相観を主とした植生図
第6図 土 壌 図
第7図 名瀬都市形態模式図
第8図 地域区分図
第9図 計画パターン図
第10図 保存緑地分級度図

## IV

### 第11図 名瀬市赤崎公園基本計画図

第1表 名瀬市自動車保有台数推移表

第2表 乾性赤黄色土の分析

第3表 弱乾性黄色土の分析

第4表 弱乾性褐色森林土の分析

第5表 地域区分とその性格表